

令和6年度
事業報告

社会福祉法人
飯塚市社会福祉協議会

1. 事業の総括

各種福祉活動を推進する中核的な機能を持つ飯塚市社会福祉協議会では、飯塚市や関係機関と連携しながら住民参加による地域福祉活動を展開してきました。日常生活において人との距離感やマスクなしの生活もコロナ前に戻ってきたことで、たくさんの行事が開催されるようになり、コロナで途絶えた繋がりや再構築のための年でもありました。飯塚市の目指す「誰もが安心して暮らせるまちいづか」の実現に向けて本会が取り組んできた各種事業は次のとおりです。

- (1) 地域福祉関連事業では、生活体制整備事業の活性化に取り組み、第2層協議体の地区の特性を取り入れた取り組みを行いました。また、地区（校区）社会福祉協議会や自治会、民生委員・児童委員、福祉委員の皆さんの協力を得ながら「社会資源の情報収集」、健幸寿命へ繋げるため、ふれあい・いきいきサロンへの「介護予防の講師派遣」、「高齢者の見守り活動」など連携した取り組みを行いました。

また、自立支援と相談援助につきましては、特に、判断能力が低下した方への福祉サービスが円滑にすすめられるよう、身近な相談窓口として迅速かつきめ細やかな支援に努めました。

日常生活自立支援事業や法人後見事業を通じて、利用者が普段と変わらず日常生活が送れるように着実に取り組みを行いました。ボランティアセンターでは、新たな取り組みとして「傾聴ボランティア」入門講座を開催し、養成と登録を行いました。また、福祉教育の推進につきましても、関係機関や団体の皆さんと共に連携し、取り組みをすすめました。

そして、社会福祉法人の公益活動として「飯塚市社会福祉法人地域公益活動連携協議会」の事務局を担い、各法人の強みを生かした、実践可能な福祉に関わる地域貢献活動に取り組みました。

- (2) 介護保険等関連事業では、福岡県の【介護福祉士を目指す留学生マッチング事業】を活用し、新たに留学生受入事業に取り組み留学生の受け入れ準備を行いました。来年度はミャンマー連邦共和国より2名の留学生を受け入れ、貴重な介護人材として育成を図ります

また、飯塚市より『障がい支援区分認定調査事業』・『ヤングケアラー・支援対象児童等訪問支援事業』を受託し、新規事業展開に取り組みました。

さらに利用者及び従業者の人権擁護のため、虐待防止委員会・身体拘束等適正化委員会を開催するとともに、災害等不測の事態に備え BCP（業務継続計画）を適宜改訂し、全職員を対象とした研修会を実施するなど働きやすい職場環境作りに職員一丸となって取り組みました。

- (3) 理事会、評議員会において、議案の審議等を行うことで法人運営の透明性を計るとともに、法律の改正等に対応するための情報収集や諸規程の変更に努めました。

今年度は育児・介護休業等に関する規程の変更や女性活躍推進法及び次世代育成支援対策推進法に基づく一般事業主行動計画の策定を行いました。

また、法人全体のスキルアップにもつながるよう各種研修会の参加に努め、本会としてもハラスメント防止及び出生時育児休業の研修会を行いました。

その他、本会所有財産土地の売却処分も無事に済み、長年に渡り山積された課題を一つずつ解決することで法人運営の安定にも取り組みました。

2. 地域福祉関連事業

(1) 生活支援体制整備事業の推進

生活支援コーディネーターと協議体

地区担当の生活支援コーディネーターが、地区社協、地域福祉ネットワーク委員会、自治会、民生委員・児童委員、福祉委員、老人クラブ、包括支援センターなどに呼びかけ協議体を組織し、福祉座談会やアンケート調査などを通して地域の福祉課題を抽出するとともに、地区の社会資源調査・担い手の育成・元気高齢者の社会参加など、多様な主体からサービスが提供できるような仕組みづくりを協議しました。

今年度は協議体活動を開催することができた地区も増え、各地区で様々な活動を行いました。包括支援センターが主催する地域ケア会議には生活支援コーディネーターとして参加をしました。

協議体においては、概ね生活圏域を範囲とした第2層協議体と市全域を共有する第1層協議体があり、各地区の第2層協議体代表者と生活支援コーディネーターとで行う会議を「生活支援体制推進会議」と称し、年2回開催することができ、第1層協議体全体で本事業について理解を深めることができ「飯塚市地域包括ケアシステム会議」で活動報告を行いました。

(2) 小地域福祉活動

① 地区（校区）社協・地域福祉ネットワーク委員会活動との協働

小地域福祉活動推進の基盤となる実践として、市内18ヶ所の地区（校区）社協、20ヶ所の地域福祉ネットワーク委員会の活動を日常的に支援しました。活動資金である共同募金からの事業助成の削減により、改めて事業の見直しを行うなど、地域の各組織団体の協力を得ながら、次の活動に取り組みました。地区（校区）社協を中心に、ふれあい・いきいきサロン、福祉委員研修会、ひとり暮らし高齢者会食会、ふれあい電話、長寿弁当、グラウンドゴルフ大会、男性料理教室、三世代ウォーキングなどが取り組まれています。

② 福祉委員活動（地区別福祉委員研修会）

高齢者の見守りなど各種地域福祉活動を目的に市内全域に配置している福祉委員（554人）の活動強化を図り、地域の要援護者見守りネットワークの活動を支援するため、福祉委員、民生委員・児童委員、自治会長、地域福祉ネットワーク委員会委員、地区（校区）社協役員などを参加対象として、市内13ヶ所の地区で、年間1～2回福祉委員研修会を実施しました。

③ 「ふれあい・いきいきサロン」活動

「ふれあい・いきいきサロン」（市内183か所）について、その代表者や世話人を対象に、サロン活動の充実・発展に資する情報の提供や交流に関する「ふれあい・いきいきサロンお世話人研修会」を7月30日、穂波交流センターで開催しました。

コロナウイルス感染予防対策を行い、孤立化を防ぐため少しずつではありますが、サロン活動の再開を目指し、各地区（校区）社協を通じて、サロンへの助成金の交付も行いました。

(3) ふくおかライフレスキュー事業の取り組み

生計困難者が公的な制度やサービスなどを受けられるようになるまでの間、必要に応じてライフラインの復旧や一時的な食事の提供、ならびに関係機関との連携会議などを通して支援を行いました。令和6年度の本会の支援件数は4件でした。

(4) 社会福祉法人の地域公益活動の取り組み（飯塚市社会福祉法人地域公益活動連携協議会）

飯塚市内にある児童・障がい者・高齢者・地域福祉の4分野の社会福祉法人が集まって結成された飯塚市社福連は、「地域における公益的な取り組み」を行うことを目的に本会が事務局を務め、現在では25法人が加入しています。

今年度は、飯塚地区にある「フードバンク」2ヶ所の賛助会員となり、ライフレスキュー事業の生活困窮者の支援をおこないました。また、地域貢献事業として、小中学校の福祉体験学習では、専門職が講師として協力していただきました。またボランティア連絡協議会の事業で地域防災活動の取り組みとして「防災運動会」への協力も行いました。

(5) 認知症サポーター養成講座

飯塚市の受託事業として「認知症サポーター養成講座」を継続して取り組みました。令和6年度は、延べ17回の講座を開催し、612人のサポーターを養成しました。（延べ13,688人）

受講団体名	開催日	参加者(人)
脳元気教室① コミュニティセンター	4/24	30
脳元気教室② 鯉田	5/24	28
穂波地区（民生委員）	6/11	12
市民講座①	6/22	13
郵便局（平恒、忠隈、他）	7/2	24
筑穂中学校 2年生	7/9	74
市民講座②	9/21	59
脳元気教室③ 庄内	9/30	32

受講団体名	開催日	参加者(人)
飯塚鎮西中学校	10/29	105
脳元気教室④ 飯塚東	10/29	5
飯塚市企業局	11/29	21
近畿大学九州短期大学	12/20	44
脳元気教室⑤ 幸袋	1/9	20
穂波西中学校 1年生	1/29	114
市民講座③	3/1	10
飯塚市立図書館	3/6	8
やしま整骨院	3/19	13

フォローアップ研修

過去に認知症サポーター養成講座を受講した方を対象にフォローアップ研修を行いました。

キャラバンメイト（サポーターを養成する指導者）を対象としたフォローアップ研修は、テキストの内容が改訂された為、内容の変更点の説明やポイントを学びました。

対象者	開催日	参加者(人)	講師
キャラバンメイト フォローアップ研修	5/21	14	「認知症サポーター養成講座 テキスト改訂版について」 講師：特別養護老人ホームなごみの里 土居 孝男
認知症サポーター フォローアップ研修	11/30	9	「認知症サポーター養成講座フォローアップ研修」 講師：キャラバンメイト 岡本政孝

(6) 権利擁護センター事業

権利擁護センターでは、認知症や知的障がい、精神障がいなどにより、判断能力が不十分な人を福祉的側面から支援する「日常生活自立支援事業」と、法的な側面から本人の権利を守り生活を支援する「法人後見事業」を行いました。

利用者の推移など

ア 新規利用者数

〔権利擁護事業〕 26人（令和6年度・利用者数：91人）／解約者17人

〔法人後見事業〕 1人（令和6年度・利用者数：4人）／終了者0人／類型：後見2人・保佐1人・補助1人

イ 新規相談者数 65人

ウ 年間延べ相談援助件数 2,320件

エ 新規生活支援員育成者数 1人（令和6年度・生活支援員数：7人）

オ 運営審議会の開催

6回（4/23、6/27、8/27、10/31、12/17、2/12）

カ 本所・支所の利用者数

（単位：人）

	本所	穂波支所	筑穂支所	庄内支所	颯田支所	計
ほっとサービス	11	4	1	0	1	17
日常生活自立支援	41	18	3	4	4	70
法人後見	2	1	0	0	1	4
計	54	23	4	4	6	91

(7) ボランティアセンター事業

① ボランティアに関する相談・紹介などコーディネート業務

個人・団体より相談を受け、96件のコーディネートを行いました。

② ボランティアの養成

ア 手話奉仕員養成講座（入門課程）

4月11日から9月5日（通算20回 毎週木曜日）、飯塚市の委託を受けて飯塚市聴覚障害者協会・飯塚市手話の会の協力により45人の受講者を得て開催しました。

修了者：42人

イ 手話奉仕員養成講座（基礎課程）

9月12日から2月20日（通算22回 毎週木曜日）、飯塚市の委託を受けて飯塚市聴覚障害者協会・飯塚市手話の会の協力により49人の受講者を得て開催しました。

修了者：46人

ウ 音声訳ボランティア養成講座

視覚障がい者の方々に各種印刷物や図書などをテープ・CDとして作成した情報を提供する「音声訳（朗読）ボランティア講座」を下記のボランティア団体の協力を得て開催しました。

- ・音訳いっづか 講座 6月に開催 受講者10人 修了者8人
- ・声のボランティアサークル 穂声 講座 10月に開催 受講者6人 修了者4人

エ 点訳ボランティア養成講座

視覚障がい者の方々に暮らしに関わる情報提供を行う「点訳ボランティア養成講座」を下記のボランティア団体の協力を得て開催しました。

- ・点訳ボランティア キャンドル 講座 2月に開催 受講者9人 修了者8人
- ・点訳 さくら 講座 3月に開催 受講者2人 修了者2人

オ ボランティア養成講座

- ・傾聴入門講座 第1回 令和7年1/16 入門編と高齢者への傾聴とは：参加者7名
第2回 令和7年1/23 穂波学園見学と講話
児童・障がい者への傾聴とは：参加者5名
- ・ボランティア体験講座
第3回 令和7年1/30 プルタブ収集ボランティア体験を本所研修室にて体験と
交流会を開催：参加者6名

③ ボランティア活動保険

保険に関する相談、受付、加入手続き、事故処理、調整を行いました。

ボランティア活動保険（行事用保険：145件 活動保険：101件 サロンの保険：28件
送迎サービス：1件 福祉サービス：3件 事故処理：6件）

④ 移送支援事業

利用者と運転ボランティアのコーディネートを行いました。

利用登録者15人に対し、運転ボランティア3人（2月より1名増）、ボランティアセンター職員2人により年間延べ128件の移送支援を行いました。

⑤ ボランティア活動の推進

ボランティア団体の育成および連絡協議会への支援を行いました。

飯塚市ボランティア連絡協議会として、各地区のボランティア連絡協議会およびそれに所属するボランティア団体の活動を支援しました。

(8) 障がい者福祉活動の推進

① 障がい児者バスハイク

障がい児者間の交流やボランティアとの交流を図るためのバスハイクを11月17日(日)に開催しました。

参加者は、31人で、海の中道マリンワールド水族館へ行きました。

② 飯塚国際車いすテニス大会の支援

毎年、国内外の身体障がい者間のスポーツの交流や相互理解などを目的とした車いすテニス大会に対して大会出場選手に対する送迎用リフト車の提供を行いました。

(9) 子育て、児童・青少年福祉活動の推進

子育て分野の事業として当事者同士の交流を目的とした「子育てサロン・おやっところ」を開催しました。開催地区の民生委員・児童委員や主任児童委員をはじめ、ボランティアの方々の協力を得て年10回サロンを開催しました。延べ50組102人の参加がありました。

(10) その他の地域福祉活動

- ① 社協だよりの発行、年3回（6月、10月、2月）
- ② 10月14日（祝）「みんなの健幸・福祉のつどい2024」
- ③ 福祉関係団体への運営費助成および事業支援
- ④ 心配ごと相談所運営（相談件数15件）
- ⑤ 福祉用具貸し出し（車いす188件・松葉杖6件）延べ194件
- ⑥ 共同募金運動への協力
- ⑦ シルバー陶芸教室年間延べ利用者数 371人

(11) 支所（エリアごと）地域福祉推進事業報告

◎飯塚エリア

1) 高齢者福祉活動の推進

- ① 赤い羽根共同募金配分金事業「会食会・配食サービス」
地域交流、社会参加、仲間づくり、見守り活動などを目的に、一人暮らし高齢者及び高齢者世帯の方々を対象とした地区社協が主催する「会食会」や「配食サービス」の支援をしました。
- ② 在宅介護者の会「つくしの会」活動の支援
在宅で寝たきりの方や認知症高齢者を抱える介護者の会（毎月開かれる定例会・研修会・リフレッシュ行事など）に参加し助言や支援など年10回支援をしました。

2) 児童・青少年福祉活動の推進

福祉体験や総合学習の支援

児童・生徒を対象に、障がい者や高齢者への正しい理解と知識を深める事を目的として、手話や点字、車いすの操作や認知症の理解、障がい者との交流など、福祉教育の充実を図るため、市内の小中学校と協力して支援を行いました。

3) 地区（校区）社協との連携と地域福祉活動の推進

- ① ふれあい・いきいきサロン活動の支援と推進
ボランティアや民生委員・児童委員、福祉委員、自治会長を中心に1～2ヶ月に1回程度実施されているサロン向けに、さまざまな趣味や特技、資格をもった「特技ボランティア」を求め、登録を行い、紹介を行いました。
- ② 地区「ふれあい電話」活動の推進
地区社協によっては、地域において見守りが必要な一人暮らし高齢者、高齢者夫婦の方々を対象にした「ふれあい電話相談」の活動を推進しました。
- ③ 地域ふれあい活動事業の実施
コロナウイルス感染予防のため、地区社協を基盤とした、親子球技大会、グラウンドゴルフ大会、ウォークラリー大会、どんど焼き祭りなどの活動は、少人数での開催を行うなど新たな取り組みを行いながら、事業を進めました。
- ④ 福祉委員の設置推進
福祉委員を配置し、見守りが必要な一人暮らし高齢者、高齢者夫婦世帯、障がい児者などの訪問活動を支援しました。

- ⑤ 福祉委員研修会の開催
福祉委員研修会については、市社協主催1回と各地区社協主催1回の合わせて年間2回の研修会を行いました。
- ⑥ 地区社協・地域福祉ネットワーク委員会との連携強化
9地区社協で開催されるネットワーク委員会に参加し、連絡調整ならびに事業推進の支援を行いました。
- ⑦ 民生委員・児童委員協議会との連携
9地区で毎月開催される民生委員・児童委員協議会の会議に出席し、地域の要援護者ケースに係る検討会へ参画しました。

4) その他の活動の推進

- ① 日常生活自立支援事業の推進
支所コミュニティワーカー（福祉活動専門員）が、本所権利擁護センター専門員と生活支援員との業務連携を図る役割を担う推進員として、判断能力が不十分な利用者の生活を支援しました。
- ② 共同募金運動への協力
自治会、民生委員・児童委員、地区社協、行政との連携のもと、街頭募金、法人募金、戸別募金の協力を行いました。
- ③ 心配ごと相談の実施
民生委員・児童委員や人権擁護委員である相談員の協力を得て、心配ごと相談所を奇数月に1回開設しました。

5) 各地区まちづくり協議会への参画

各地域コミュニティの構築と活性化に向けて設立された「まちづくり協議会」に、協力団体として、会議に出席し、組織運営・事業内容の打ち合わせや地域課題とその解決策などについて協議に参画しました。

◎穂波エリア

1) 高齢者福祉活動の推進

- ① 在宅介護者の会「かたらい」の活動支援
毎月第3水曜日を定例会とし、会員のリフレッシュを目的として開催しています。情報交換をはじめ、他の介護者の会との交流会など活動の支援を行ないました。
- ② 一人暮らし緊急入院「安心箱」の推進
利用件数 3 件

2) 障がい者福祉活動の推進

- ① テレホンサービス事業
声のボランティアサークル「穂声（すいせい）」に毎週月曜日、内容を更新してテープに吹き込んでもらい、フリーダイヤルで視覚障がい者への情報提供を行いました。

② 市報などのテープ吹き込み配布事業（音訳）

声のボランティアサークル「穂声（すいせい）」が社協だよりの吹き込みを行いました。さらに、交流センターだよりや支所だより（年 4 回発行）、その他の情報をテープに吹き込み・ダビング・発送の一連の作業も行いました。

3) 児童・青少年福祉活動の推進

① 社会福祉推進校事業の推進

穂波支所管内の各小・中学校と連携して車いす体験、アイマスク体験、手話や点字の講習、高齢者疑似体験、環境福祉などについて児童に対する理解を深める授業に年間 11 回参加しました。

② 春休み福祉体験校の開催

穂波地区の各小学校へ参加募集を行い、12 名の参加者で自治会公民館で開催されている、ふれあい・いきいきサロンへ参加して、ふれあい交流会並びに、車いす生活者の話、車いす体験、高齢者・障がい者福祉について学習しました。

③ 子育て広場の開催

子育て支援として同じ世代のお子さんを持つ親同士の友達作りの場と子どもとのスキップの取り方などを学ぶという二つの目的をもって開催しています。4 か月を 1 クール制（但し、5 月～7 月のみ 3 ヶ月で 1 クール）とし、連続して同じメンバーで集まることで交流を深めています。令和 6 年度は年 1 1 回の開催で平均 1 0 組の親子の参加がありました。

4) 地域福祉活動の推進

① ふれあい・いきいきサロン並びに介護予防教室活動への支援と推進

会場である自治会公民館などへ「ふれあい・いきいきサロン」「介護予防」への取り組みに（年 45 回開催）参加し、講話や DVD 上映会、レクリエーション遊具の貸し出し、特技ボランティアやその他の講師派遣や調整を行いました。

② 校区社協活動の支援

穂波地区 6 校区社協の役員会・運営委員会へ出席し、事業企画・事務・実施の支援、活動費の助成を行いました。

③ 福祉委員活動推進と強化

毎月第 3 火曜日に定例会を全 1 0 回開催しました。福祉委員が地域福祉のアンテナ役として活動していただくため、高齢者を対象とした「ニセ電話詐欺・防災対策・赤い羽根共同募金」などをテーマとした研修会を開催しました。

④ 自治会長会との連携

年間 3 回出席し、社協穂波支所の福祉事業の紹介、赤い羽根共同募金や賛助費、各事業への協力依頼を行いました。

⑤ 民生委員・児童委員協議会との連携

定例会へ参加し、社協穂波支所の福祉事業の紹介、各事業実施のための調査や調整、配布物の依頼などを行いました。

⑥ 校区社協連絡会の開催

穂波地区内の6校区の社協会長・副会長・事務局長に参加していただき、令和7年度から飯塚市社協が委託を受け取り組む重点事項の1つである「重層的支援体制整備事業」について研修会を開催しました。

5) ボランティア活動の推進

ボランティアなど連絡協議会との連携

第3水曜日の定例会資料の作成、ボランティア団体への連絡調整ならびに年3回発行しているボランティア情報誌の編集などの支援を行いました。

ボラ連主催行事の「We Love 穂波川」は、穂波ボランティア連絡協議会の会員33名で実施しました。

6) その他の活動の推進

① 穂波地区福祉賛助費

穂波地区の福祉活動を促進するため、賛助費募金について全戸にチラシを配布し、協力依頼をしました。令和6年度の穂波地区福祉賛助費は846,492円のご協力をいただきました。

② 日常生活自立支援事業の推進

支所コミュニティワーカー（福祉活動専門員）が、本所権利擁護センター専門員と生活支援員との業務連携を図る役割を担う推進員として、判断能力が不十分な利用者の生活を支援しました。

③ 共同募金運動への協力

自治会、民生委員・児童委員、校区社協、行政との連携のもと、街頭募金、法人募金、戸別募金などに協力しました。

④ 心配ごと相談の実施

民生委員・児童委員や人権擁護委員である相談員の協力を得て、奇数月に1回の心配ごと相談所を年間6回開設しました。

⑤ 支所だよりの発行

年間4回（5月15日、8月15日、10月15日、1月15日）発行しました。

7) 穂波まちづくり協議会への参画

穂波地区地域コミュニティの構築と活性化に向けた取り組みとして、穂波まちづくり協議会に協力団体として、まち協主催の事業に参加しました。

◎筑穂エリア

1) 高齢者福祉活動の推進

① ひまわり友の会（一人暮らし高齢者会食会）の開催

令和6年度も昨年同様、新型コロナウイルス感染予防のため、「会食会」を中止し、筑穂地区民生委員・児童委員のみなさんにご協力いただき、75歳以上の一人暮らし（280人）の方に記念品の配布を行ないました。

② 在宅介護者の会『桜の会』の開催

在宅で寝たきりや認知症などの家族を介護している方の交流の場として、「オレンジカフェ」と合わせた会合を年13回開催しました。また、飯塚市社協主催の在宅介護者リフレッシュ事業に参加される方もおられました。

③ 「あんしん携帯カード」と「ふれあい・ほっとライン」の普及

75歳以上の一人暮らしの方を対象とした、緊急連絡先やかかりつけの病院などを記載した「あんしん携帯カード」と、筑穂地区まちづくり協議会保健福祉部会との協働事業として提供していただいた「安心キット」に「ふれあい・ほっとライン」の用紙を入れ、冷蔵庫で保管する安心キットを民生委員・児童委員の協力のもと、更新と新規合わせて26人の方に配布しました。

④ 筑穂地区「健幸講座」（飯塚市主催事業）への協力

飯塚市が、フレイル予防・介護保険啓発・健幸ポイント事業の促進を目的として開催した「健幸講座」に筑穂地区社協が共催として協力しました。多くの方に「健幸寿命」に関心をもっていただき、介護予防事業へ繋げる取り組みとして、生活支援コーディネーターが調整役となり活動しました。年間延べ11回開催し、参加者は延べ194名でした。

2) 障がい者福祉活動の推進

おもちゃ図書館の運営

当事者および家族などからの利用申し込みにより随時開館し、年間延べ利用者27人の利用がありました。

3) 地域福祉活動の推進

① ふれあい・いきいきサロン活動の支援と推進

会場である自治会公民館などのサロンに出向き、講話やDVD上映会、レクリエーションなどを実施したり、特技ボランティアや介護予防の講師の派遣の調整を行いました。

② 介護予防講座「ふれあいマーじゃん」の開催

脳トレーニングの一環である「ふれあいマーじゃん」は年間延べ23回開催しました。

③ いきいきサロンボランティア「にこにこリズム体操」指導員研修会

いきいきサロンでの介護予防メニューの普及を支援する「にこにこリズム体操」指導員の方々（23名）に集まっていただき、毎月第3金曜日にスキルアップ研修を行いました。

④ ふれあいフェスタちくほの開催

筑穂地区の福祉関係団体が実行委員となり、広く一般の方に地域福祉を理解していただくため、筑穂地区まちづくり協議会の保健福祉部会の協働事業として地域の方々がふれあい、交流できる場をつくることを目的に11月17日（日）に開催しました。

⑤ 自治会長会との連携

令和6年度も、賛助会員加入の依頼、共同募金への協力依頼、地区社協・ネットワーク委員会の事業についての説明や協力依頼などを行いました。

⑥ 民生委員・児童委員協議会との連携

毎月開催される民生委員・児童委員協議会へ参加し、「ひまわり友の会」などの実施案内、福祉委員活動への協力依頼などを行いました。

⑦ 地区社協・3校区地域福祉ネットワーク委員会の支援

筑穂地区社会福祉協議会、大分・上穂波・内野校区地域福祉ネットワーク委員会の運営を支援しました。

⑧ 福祉委員連絡会の開催

活動の交流や意見交換、研修などについて連絡会を9月12日に開催しました。

4) ボランティア活動の推進

① ボランティア連絡協議会との連携

ボランティア連絡協議会の会議を5月17日に開催し、各団体の前年度の活動報告や活動計画等の意見交換を行い、連携、協働を図りました。

② ふれあい電話の実施

毎週水曜日に、一人暮らし高齢者などに対して電話による安否確認を行う活動を支援しました。

5) その他の活動推進

① 福祉活動賛助会費

筑穂地区の福祉活動を促進するため、賛助会費募金について全戸にチラシを配布し、協力依頼しました。令和6年度筑穂地区福祉活動賛助会費は1,109,000円ご協力いただきました。

② 日常生活自立支援事業の推進

支所コミュニティワーカー（福祉活動専門員）が、本所権利擁護センター専門員と生活支援員との業務連携を図る役割を担う推進員として、判断能力が不十分な利用者の生活を支援しました。

③ 共同募金運動への協力

自治会、民生委員・児童委員、地区社協、行政との連携のもと、街頭募金、法人募金、戸別募金などに協力しました。

④ 心配ごと相談の実施

民生委員・児童委員や人権擁護委員である相談員の協力を得て、偶数月に心配ごと相談所の開設をしています。令和6年度は、年間5回行いました。

6) 筑穂地区まちづくり協議会への参画

筑穂地区地域コミュニティの構築と活性化に向けた取り組みとして、筑穂地区まちづくり協議会の各種会議に出席し、組織運営・事業の実施や手順などについての打ち合わせや地域課題とその解決策についての協議を行いました。

◎庄内エリア

1) 高齢者福祉活動の推進

① 一人暮らし高齢者交流会の開催

6月25日、庄内地区全体で年に1回開催し、97名の参加がありました。

② 三世代交流会「高齢者と庄内中学校との交流会」の開催

7月7日に飯塚吹奏楽団と庄内中学校吹奏楽部による演奏会を実施しました。総勢120名と大変多くの方にご参加いただきました。

2) 障がい者福祉活動の推進

庄内地区 障がい者バスハイク

9月24日、9名参加で「日産自動車九州」の工場見学と「会食会」を実施しました。

3) 児童・青少年福祉活動の推進

福祉体験事業

7月10日、庄内小学校4年生を対象に福祉体験（車いす、ボッチャ）の授業を行いました。

4) 地域福祉活動の推進

① 自治会長会、民生委員・児童委員協議会との連携

庄内地区社協や地域福祉ネットワーク委員会をはじめ、地域福祉活動について協力の依頼を行いました。

② 小地域福祉活動の推進

ア 福祉委員研修会を5月28日に行いました。

イ ふれあい・いきいきサロンの運営に対し、サロンの実施などの相談・支援を行いました。（令和6年度、10自治会で実施）

③ 地区社協・地域福祉ネットワーク委員会の支援

総会を5月14日、運営会議を10月22日と2月13日の計3回行いました。

5) 庄内地区第2層協議体

生活支援体制整備事業で行ったアンケートをもとに庄内地区協議体で作成した「庄内地区ちょっと頼みたい有料サービス」の冊子を単身、二人暮らしの高齢者世帯へ民生委員さんの協力で配布していただき、依頼される方の層の拡大を試みました。

令和6年度の利用者実績 6件

6) その他の活動の推進

① 日常生活自立支援事業の推進

支所コミュニティーワーカー（福祉活動専門員）が、本所権利擁護センター専門員と生活支援員との業務連携を図る役割を担う推進員として判断能力が不十分な利用者の生活を支援しました。

- ② 共同募金運動への協力
自治会、民生委員・児童委員、地区社協、行政との連携のもと、街頭募金、法人募金、戸別募金活動などに協力しました。
- ③ 心配ごと相談の実施
民生委員・児童委員、人権擁護委員である相談員の協力を得て、奇数月に1回の心配ごと相談を開設しました。
- ④ 支所だよりの発行
年間2回（9月15日、3月15日）に発行しました。
- ⑤ レクリエーション遊具（用具）の貸し出し
庄内地区の介護予防や子どもたちとのコミュニケーションツールの1つとして貸し出しを行いました。
- ⑥ 男性料理教室
12月20日、飯塚市食生活改善推進会庄内支部の皆さんに協力をいただき、参加者10人で料理教室を行いました。

◎ 穎田エリア

1) 高齢者福祉活動の推進

- ① 給食サービスの支援
穎田地区社協、民生委員・児童委員協議会穎田支部の協力を得て、給食サービスを実施しました。
対象者：80歳以上の一人暮らしの方、毎月第3木曜日（年12回）、年間延べ494食
- ② 高齢者とボランティアのつどいの開催
かいた訪問ボランティアさつき会と共催で、地域のつどいを開催しました。
対象者：石丸団地1・2・3自治会 場所：石丸団地3公民館 参加者数：34人
- ③ 高齢者記念品配布事業の実施
80歳以上の一人暮らし高齢者の方へ敬老祝いとして記念品を配布しました。
- ④ 飯塚市社協 穎田地区「生活支援サポーター」養成講座の開催
「健幸講座に参加した方」や穎田地区で活動されている「いきいきサロンの世話人」の方々に「生活支援サポーター」の講座を受講していただきました。この受講をきっかけに、穎田地区で取り組んでいる介護予防事業に「生活支援サポーター」として活躍していただけるきっかけとなりました。

2) 障がい者福祉活動の推進

手をつなぐ親の会活動の支援

4月21日（日）の総会、7月21日（日）のミニボッチャ大会、11月24日（日）バスハイク、12月8日（日）のクリスマス会、3月16日（日）のお好み焼き作り交流会に参加し、会員の皆さんと交流しました。

3) 児童・青少年福祉活動の推進

① 3世代交流事業の実施

颯田地区体育振興会の協力を得て、7月6日(土)に3世代交流スポーツ体験会を開催いたしました。(大人43名、子ども25名)計68名

② 颯田子育てサポートジャムとの連携

毎月第1、第3木曜日に颯田高齢者福祉センターで開催されている「じゃむんち」の活動を支援し、親子でいつでも参加できる居場所づくりと、子どもに関する悩みを共有し、支援が必要な場合には、ジャムと社協がすぐに連携できるような体制づくりに取り組みました。12月15日には、飯塚市チャレンジing事業としてジャムが主催した「かいたマルシェ」に協賛団体として参加し、ボッチャ体験会を実施しました。

4) 地域福祉活動の推進

① 自治会長会との連携

5月に自治会長会の総会に出席し、颯田地域だよりの配布協力、赤い羽根共同募金、地区社協・ネットワーク委員会の事業についての協力依頼を行いました。

② 民生委員・児童委員協議会との連携

毎月第2水曜日に開催される定例会に出席し、福祉活動について連携を図りました。一人暮らし給食サービスの弁当配布などにご協力いただきました。

③ 地区社会福祉協議会、地域福祉ネットワーク委員会の支援

ア 地区社協と地域福祉ネットワーク委員会の総会と、合同会議を年11回開催しました。

イ 颯田高齢者福祉センターの管理、運営を行いました。

(入館者：年間 3,448人)

5) ボランティア活動の推進

訪問ボランティア団体「さつき会」活動の支援

毎月1回定例会に出席し、ケース検討など活動の支援を行いました。

6) その他の活動の推進

① 日常生活自立支援事業の推進

支所コミュニティワーカー(福祉活動専門員)が、本所権利擁護センター専門員と生活支援員との業務連携を図る役割を担う推進員として、判断能力が不十分な利用者の生活を支援しました。

② 共同募金運動への協力

自治会、民生委員・児童委員、地区社協、行政との連携のもと、街頭募金、法人募金、戸別募金などに協力しました。

③ 心配ごと相談の実施

偶数月に年6回、民生委員・児童委員や人権擁護委員である相談員の協力を得て、心配ごと相談所を開設しました。

④ 地域だよりの発行

年間4回（5月15日、8月15日、11月15日、2月15日）発行しました。

3. 介護保険等関連事業

(1) 介護保険事業

① 居宅介護支援事業

・ケアプラン作成管理 年間延べ件数 3,598件
[飯塚支所] 1,684件 [穂波支所] 1,914件

② 介護予防居宅介護支援事業

・予防プラン作成管理 年間延べ件数 561件
[飯塚支所] 247件 [穂波支所] 314件

飯塚支所は昨年引き続き職員の補充ができず5名体制での稼働、穂波支所は年度途中で1名が退職した為、飯塚支所と同じく5名体制での稼働となりました。

③ 訪問介護事業

・年間延べ派遣回数 10,468回
介護保険事業は去年に比べて510回増えました。

④ 介護予防訪問介護事業

・年間延べ派遣回数 4,793回
総合事業は同じく去年に比べて195回減りました。

入院・入所・死亡等中止になるケースもありましたが、積極的な新規利用者の獲得や業務効率化を図った結果、③と④を合わせて315回増えました。

⑤ 通所介護事業 [筑穂]

・年間延べ利用者数 5,836人
介護保険事業は去年に比べて882人減りました。

⑥ 介護予防通所介護事業 [筑穂]

・年間延べ利用者数 1,634人
総事業は同じく昨年比べて772人減りました。

新型コロナウイルス感染症の影響により中止していた外出行事や年末の餅つきなどを再開し利用者の獲得に努めましたが、新規利用者の獲得以上に要介護度の高い利用者の中止が相次ぎ、⑤と⑥を合わせて年間延べ利用者数は1,654人減りました。

⑦ ユニット型小規模介護老人福祉施設 [筑穂桜の園]

・入所定員 30人
面会制限を緩和するとともにご家族とのテレビ電話を利用した交流などを促した結果、1日の平均利用者数は28.3人となり、徐々に満床利用へと近づきました。

⑧ 短期入所生活介護事業 [筑穂桜の園]

- ・年間延べ利用人数 862人

入所が増えたことにより空床利用が制限されたため利用回数は減少し、561人減りました。

(2) 地域支援事業

① 穂波東地域包括支援センター

- ・総合相談年間延べ件数 471件
- ・包括的、継続的ケアマネジメント年間支援件数 75件
- ・指定介護予防サービス年間実績件数 911件（穂波東包括：583件 委託先居宅：328件）
- ・介護予防ケアマネジメント年間実績件数1,233件（穂波東包括：823件：委託先居宅：410件）
- ・福祉サービス代行申請年間延べ件数 39件
- ・運営推進会議年間延べ回数 14回

人事異動により3職種（社会福祉士・看護師・主任ケアマネジャー）の内、社会福祉士・主任ケアマネジャーが交代する中、職員間での情報交換に努め協力体制を構築しながら対応困難なケースや虐待が疑われる案件など様々な総合相談に応じてまいりました。

プランナーに関しては常勤職員の補充ができず非常勤職員での補充となった為、3職種も総合相談等に対応する中、並行して予防介護プランの作成を行い、昨年引き続き業務負担の大きい年度となりました。

② 筑穂地域包括支援センター

- ・総合相談年間延べ件数 496件
- ・包括的、継続的ケアマネジメント年間支援件数 51件
- ・指定介護予防サービス年間実績件数1,386件（筑穂包括：922件 委託先居宅：464件）
- ・介護予防ケアマネジメント年間実績件数 983件（筑穂包括：664件 委託先居宅：319件）
- ・福祉サービス代行申請年間延べ件数 29件
- ・運営推進会議年間延べ回数 13回（中止2回）

高齢者人口は減少しましたが要支援者は増加しており、精神疾患を抱えた地域住民や虐待疑い案件・障がい者と高齢者のみの世帯など穂波東地域包括支援センターと同様に様々な総合相談に対応してまいりました。また、ケアマネジャーの募集が叶わず3職種も予防介護プランの作成に携わりました。

③ 食の自立支援事業（配食サービス）[筑穂]

- ・年間延べ配食数 7,622食

昨年引き続き、元気な方が在宅生活継続困難となるケースや退院後入所利用となるケースが多く666食の減となりました。配食数の減少に伴い配達コースの再検討を行うなど経費節減に努めました。

④ 高齢者住宅等安心確保事業（シルバーハウジング生活支援員派遣事業）

- ・入居者数 22戸（令和7年3月末現在）

入居者数は1戸減りましたが、引き続き、飯塚市役所高齢者支援課と連携を図り、一日二回朝夕に巡回訪問を行うなど、入居者が安心して生活を送れるよう支援しました。

⑤ 飯塚市ヤングケアラー・支援対象児童等訪問支援事業

年度末に1件の依頼があり、対象世帯の支援を行いました。

⑥ 障がい支援区分認定調査事業

- ・認定調査件数 51件

飯塚市より業務委託を受け、相談支援事業との兼務で新規職員1名を採用し、12月から本格稼働を行いました。飯塚市役所担当課と連携し、今後も安定した依頼件数の確保に努めます。

（3）障害福祉サービス事業

① 居宅介護事業

- ・年間延べ派遣回数 6,352回

新規利用者の獲得より中止となる利用者の方が多く、924回減少となりました。

② 相談支援事業 [飯塚]

- ・計画作成、管理年間延べ件数 204件

管理職を含む在籍職員4名が他業務と兼務しながらも、新規利用者を受け入れ27件増加しました。

③ 児童デイサービス [筑穂]

- ・年間延べ利用者数 1,981人

非常勤職員3名を採用し、児童の特性に即したケアに努めました。

④ 障がい者支援センター（生活介護） [筑穂]

- ・年間延べ利用者数 1,532人

去年に比べ、微増となりました。今年度の報酬改定により報酬体系が変更となりましたが、大きな影響は受けず年間を通じて安定したサービス提供に努めました。

（4）地域生活支援事業

移動支援事業 [飯塚]

- ・年間延べ派遣回数 20回

利用者数は3名ではありますが、安心して外出ができるサービス提供に努めました。

（5）制度外サービス事業

- ・年間延べ派遣回数 78回 [飯塚]

介護保険制度、障害者総合支援制度、地域支援事業などの制度を補完するサービスとして本会が独自に実施している事業であり、制度では対応できない部分の生活援助や外出介助および通院介助、家族不在時の見守り支援などを行いました。

(6) 筑豊地区福祉人材バンク

福岡県社協から事務委託を受けている事業であり、福祉人材無料職業紹介所として、福祉の仕事我希望する人と、人材を必要とする社会福祉施設・事業所等の福祉職場をつなぐことを目的としています。新規求人数436人、新規求職者数47人、インターネットアクセス数15,787件、応募・紹介者数16人、就職者数6人、求人求職相談件数252件でした。県社協との協力で行う就職フェアを、今年度はゆめタウン内ゆめホールで開催し例年に比べ来場者も増えました。

4. 法人運営関連事業

(1) 筑穂保健福祉総合センターの管理運営

飯塚市との協定書に基づき、住民の健康増進と福祉の拠点として管理運営を行いました。

- ・健康運動室年間延べ利用者数6,437人
- ・会議室など年間延べ利用者数4,680人

(2) 飯塚市福祉センター伊川の郷の管理運営

当施設の運営費である飯塚オートレース場自動販売機の収益が激減する中、施設の老朽化による大規模改修が必要なことから令和6年度を以て閉館することが決まったので、閉館に向けて従業員、利用者及び利用団体との調整等に努めました。

(3) 収益事業

自主財源の確保策として以下の収益事業に取り組みました。

- ① 飯塚オートレース場に自動販売機手数料収入・・・ 2,018,047円
- ② 社協だよりへの有料広告掲載料収入・・・・・・・・ 96,000円（4件）
- ③ 社協公用車への有料広告掲載料収入・・・・・・・・ 120,000円（2件：2台）

5. 社協改革推進事業

(1) 飯塚市福祉センター伊川の郷について

施設全体の老朽化で、エアコンやエレベーターなどさまざまな設備の故障や不具合が続く中、本会の厳しい財務状況にも加え、諸物価高騰の影響も施設の経営を更に深刻化させていたため、浴場施設は令和5年7月末をもって廃止していましたが、浴場施設以外の貸室業務等についても令和6年度をもって廃止すると同時に全館を閉館いたしました。

(2) 本会所有基本財産土地（平恒608番1及び777番3）について

本会の平恒所有地について、売却処分することは令和5年度に決定していたので、令和6年度中の売却を目指して、不動産鑑定を行い、一般競争入札の結果、落札会社と令和6年12月3日に売買契約が成立し、処分に至りました。

(3) 市委託事業「重層的支援体制整備事業（移行事業）」の継続業務

令和6年度は、相談支援事業の基盤強化を進めるにあたり、包括的相談支援機関会議や複雑・複合的な事例をもとにした「支援会議（試行的）」を重ねてきました。

また、本事業の周知・広報にも力を入れ、チラシの全戸配布や各関係機関の研修会等で事業説明や協力依頼を行いました。「参加支援」や「地域づくり事業」の取り組みに関しては、相談支援から見えてきた生活課題に対し、解決に向けた協議を重ねてきました。令和

7年度からは本実施となるため、市役所や相談支援事業所等とさらなる連携強化に努め、本事業が地域住民の安心につながるような体制づくりを進めてまいります。

(4) 県社協委託事業「生活福祉資金貸付事業（本則・相談支援事業）」の展開業務

令和6年度の生活福祉資金貸付事業は、本則部分である通常業務に加え、コロナ禍における特例貸付の償還開始に伴う相談支援業務を引き続き受託し、償還手続きに問題を抱える方や経済的に償還が困難な方に対して、電話や自宅訪問しフォローアップ支援を行いました。

6. 会議、研修会

本会が開催した各種会議・研修会について報告します。

(1) 理事会（第98回～第101回）

回	開催日	議 題
98	令和6年6月5日	【報告事項】 1 会長及び常務理事の職務執行報告について 【協議事項】 1 令和5年度事業報告及び資金収支決算報告について 2 令和6年度第1次資金収支補正予算について 3 職員給与規程の一部改正について 4 役員（理事）候補者の推薦について 5 介護福祉委員会委員の選任について 6 基本財産土地（平恒608番1及び777番3）の処分方法について 7 第61回評議員会の招集について
99	令和6年10月8日	【報告事項】 1 令和6年度第1回及び第2回総務委員会委員長報告について 2 令和6年度第1回介護福祉委員会委員長報告について 3 令和6年度第1回地域福祉委員会委員長報告について 4 准職員2種就業規則の一部改正について 【協議事項】 1 役員（理事）候補者の推薦について 2 評議員候補者の推薦について 3 第14回評議員選任・解任委員会の招集について 4 留学生奨学金等貸与規程について 5 留学生の寮貸与規程について
100	令和6年11月27日	【報告事項】 1 令和6年度第3回総務委員会委員長報告について 【協議事項】 1 積立金規程の一部改正について 2 経理規程の一部改正について 3 基本財産土地（平恒608番1及び777番3）の売却契約について 4 令和6年度第2次資金収支補正予算について 5 定款の一部変更について 6 飯塚市福祉センター伊川の郷の閉館について 7 第62回評議員会の招集について
101	令和7年3月6日	【報告事項】 1 会長及び常務理事の職務執行報告について 2 令和6年度第2回介護福祉委員会委員長報告について 3 令和6年度第4回総務委員会委員長報告について 4 令和6年度第2回地域福祉委員会委員長報告について 5 飯塚市福祉センター伊川の郷について

		【協議事項】 1 副会長の選定について 2 令和6年度第3次資金収支補正予算について 3 令和7年度事業計画及び資金収支予算について 4 積立金規程の一部変更について 5 経理規程の一部変更について 6 職員給与規程の一部変更について 7 評議員・役員選出規程の一部変更について 8 理事及び評議員の定数変更について 9 定款の一部変更について 10 育児・介護休業等に関する規程の一部変更について 11 処務規程の一部変更について 12 筑穂支所における給食業務の委託契約について 13 第63回評議員会の招集について
--	--	--

(2) 評議員会 (第61回～第63回)

回	開催日	議 題
61	令和6年6月25日	【協議事項】 1 令和5年度事業報告及び資金収支決算報告について 2 令和6年度第1次資金収支補正予算について 3 役員(理事)候補者の選任について 4 基本財産土地(平恒608番1及び777番3)の処分方法について
62	令和6年12月16日	【報告事項】 1 基本財産土地(平恒608番1及び777番3)の売却契約について 2 飯塚市福祉センター伊川の郷の閉館について 【協議事項】 1 令和6年度第2次資金収支補正予算について 2 定款の一部変更について 3 理事候補者の選任について
63	令和7年3月21日	【報告事項】 1 飯塚市福祉センター伊川の郷について 【協議事項】 1 令和6年度第3次資金収支補正予算について 2 令和7年度事業計画及び資金収支予算について 3 定款の一部変更について

(3) 評議員選任・解任委員会 (第14回)

回	開催日	議題
14	令和6年10月8日	【協議事項】 1 委員長の選任について 2 評議員の選任について

(4) 総務委員会

回	開催日	議 題
1	令和6年8月8日	【協議事項】 1 理事定数及び評議員定数について 2 飯塚市福祉センター伊川の郷について
2	令和6年9月4日	【協議事項】 1 理事定数及び評議員定数について
3	令和6年10月30日	【協議事項】 1 理事定数及び評議員定数について 2 飯塚市福祉センター伊川の郷について
4	令和7年2月19日	【協議事項】 1 理事及び評議員の定数変更について 2 評議員・役員選出規程の一部変更について 3 処務規程の一部変更について 【報告事項】 1 飯塚市福祉センター伊川の郷について

(5) 介護福祉委員会

回	開催日	議 題
1	令和6年9月26日	【報告事項】 1 介護保険等事業の実施状況（4月～7月）について 2 福祉・介護職員等処遇改善加算の1本化について 【協議事項】 1 外国人材（留学生）の雇用について
2	令和7年2月10日	【報告事項】 1 介護保険等事業の実施状況（4月～11月）について 2 福祉・介護職員等処遇改善加算の1本化について 3 外国人材（留学生）雇用の進捗状況について 【協議事項】 1 令和7年度事業計画（案）について

(6) 地域福祉委員会

回	開催日	議 題
1	令和6年9月30日	【報告事項】 地域福祉活動の進捗状況 ① 共同募金配分金事業「会食・配食サービス事業」について ② 生活体制整備事業（第1層協議体会議）の報告 ③ 重層的支援体制整備事業について 【協議事項】 福祉委員改選に伴う推薦について ① 推薦依頼スケジュール ② 福祉委員設置要綱の改正（案）について ③ 日常生活自立支援事業利用料の改定について
2	令和7年2月20日	【協議事項】 1 令和7年度飯塚市社会福祉協議会事業計画（案）について 2 令和7年度共同募金配分金事業地区（校区）社協事業助成について（見直し） 3 令和7年度福祉団体助成金の交付について 4 権利擁護事業「ほっとサービス」の利用料金改定について 5 福祉委員改選に伴う推薦状況について

(7) コミュニティワーカー会議・生活支援コーディネーター連絡会：年7回開催

(8) 介護保険等管理者会議：年10回開催

(9) 人権・同和研修会

全職員対象に年1回以上の参加義務を課しました。

（市内で開催される各種人権研修への参加又は、事業所で開催する人権研修への参加）

(10) 安全運転講習会

全職員対象に年1回の参加義務として実施しました。

（事業所ごとなどで少人数にて分散開催又は個人での研修動画の視聴）